

	令和4年5月19日(木) 19時00分～21時00分							
会場	ハイブリット開催・会場は市民プラザあくろす2階はばたき、オンライン(ZOOM)参加もあり							
運営委員	会場	壽賀 一仁	欠席	村上 むつ子	欠席	嶋田 浩一	欠席	平澤 和哉
	会場	児島 秀樹	会場	横山 真理	会場	水田 征吾	会場	原島 秀一
	オンライン	長浜 洋二	欠席	佐々木 真紀	会場	梶井 文子	会場	熊谷 紀良
	会場	萩原 治	会場	高木 直				
事務局	橋本、池田、上野、涌井							

1 はじめに

- ・各委員より一言
- ・調布市社会福祉協議会 事務局長より挨拶を行った。

≪審議事項≫ 19:10～19:35

2 令和3年度事業報告書及び資金収支決算書

資料1

【事務局】 令和3年度事業報告書及び資金収支決算書について報告。

先日、資料1-3、1-4を追加配信している。

センター予算として、市民活動支援センターサービス区分、ボランティア活動推進サービス区分に分かれ、其々で資金収支を出している。協働推進課の委託予算のうち、返還は737,244円。こちらは、人件費が予算額を下回ったことが理由となっている。租税公課の科目についても1,600,000円を予算としていたが、実際はそれほどの支出はなく、返還している。

1-3 ボランティア活動推進について、こちらは調布市の福祉総務からの補助金であるが、708,676円を返還した。同じく人件費が予算額より低いことが理由である。また、新型コロナウイルスの影響によりイベント等が実施できず、支出がなかったことが理由である。

配布した資料の通り決算となったことで、ご認識をいただきたい。

【委員長】 1-4 計上経費寄付金収入 チャリティーウォークについて、執行率5.4%、前年度比23%に注目。今年度こそは、みんなで応援していきたい。

■審議結果

事務局より令和3年度事業報告書及び資金収支決算書について報告し、運営委員により承認された。

3 各グループの進捗について

・えんがわ文庫

26名の棚主が決定、3月から懇談会を開始し棚主同士の交流を推進している。
棚主同士で本棚の推し本を紹介する交流会を継続していく中で、棚主側からこんなイベントをやってみたい、などアイデアが出るのではないかと期待している。

・おはなしほっとカフェ

次回5月26日(木)10:00-12:30ふじみ倶楽部で実施。時間も拡大している。
フリーランスの作業療法士の先生をお招きして発達勉強会を企画している。現在4組が申込。今後は6月13日、7月2日に実施予定。
多胎児育児支援企画、毎月第4土曜日(次回5月28日)お話を実施していく。
多胎児支援は、継続する受け皿となる団体が育ちにくい傾向にある。センターとして、調布で安定した場所となるよう運営支援していく予定。

・居場所探訪

aona見学。近く報告書を共有予定。次回はKiitos、ふじみラウンジの見学調整中。
是非、委員の皆さんにもご一緒いただきたい。

【委員】富士見町子ども連絡会にて、おはなしほっとカフェを宣伝した。
興味を持ってくださることが多かった。多胎児の会も注目が集まった。

≪協議事項≫ 19:35~20:55

4 中長期運営方針を踏まえた前回アイデアの整理

資料2

【事務局】資料2-1を参照。運営委員会で話し合った内容を中長期運営方針5本の柱に当てはめたところ、パートナーシップの強化に着目した委員が多いことが伺える。また、5本の柱に直接入らなくても、えんがわ文庫、居場所探訪についてのご意見が多く出ている。そのため、えんがわフェスタでは、パートナーシップの強化をベースとした、居場所に関わる内容で整理をしていくのが良いのではないかと考えている。

えんがわフェスタ使用予定場所は市民活動支援センターはばたき(全館予約可能)、予算として総額460,000円確保。

5 えんがわフェスタ企画の検討

資料3

- ・過去の企画の紹介
- ・今年度企画(やりたいこと)の共有

・アイデアの共有

小グループに分かれてアイデア出しを行った。

【グループ1】

昨年度実施のえんがわフェスタについて、振り返りながら話し合った。
昨年度は、団体の想いを中心に話を聞くことはできたが、そこで終わってしまった。それをさらに深めていくことを考えると、今年は、市民の声を聞くのが良いのではないかと感じる。
居場所が必要だと言われているが、どのような環境を作られれば良いのか、どのくらいの数があると良いのか、などのゴールイメージがないように感じる。
えんがわフェスタをマイルストーンとして、地域にどんな課題があり、その課題の解決につながる場が用意されているのかを考察するためにも、マイノリティの方の声を拾える仕組みを考えたい。見つかった課題についてはセンター事業として実施するのか、または政策提言するなど、具体的な行動につなげていくという流れを作れたら良い。
多様な参加者、マイノリティの方の参加を促進するため、無作為抽出で招待状を送る案、個人情報を開示しないでも参加できる方法なども検討したい。
したい。

【グループ2】

誰もが安心できる、誰もが来ることができる、受け入れてもらえる居場所を考える。分野はたくさんあるが、たとえばプレゼンテーション型、やっている人がなぜその居場所をやっているか、参加者がなぜそこにたどり着いたのか聞く。
居場所を探している人に、参加のきっかけとなれば良い。プレゼンテーションを受けて、興味があるブースに参加してもらおうが、どこにも入れない人を集めて、「今日の居場所」を作り、その人たちでどんな場所が良いか話し合ってもらおう。
市内の社会資源情報を紙で貼り出す。すると、話を聞くのが苦手な人も、情報が知れる。行きたい場合は、詳細情報は、職員に質問しないと教えてもらえないようにして、そこに人のつながりを作る仕組みができれば良いのではないかと感じる。

【グループ3】

そもそも居場所とは？をテーマ。紹介するというだけでなく、交流、参加できるような仕組み。こども協力隊に対して、大人探検隊はどうか。参加もしくは、お互いに聞き合うか方法を選べる。対象は、学生にとっての居場所、親子にとっての居場所、自分の課題を持った人の場所があるということをお互いに伝え合う。
狙いは、気づいていない場所、居心地が良い場所って何だろう、を考える時間としたい。それぞれの居場所を考える。私にとっての居場所をいくつかある中で共有し、居場所の可能性を探っていく。ワールドカフェ形式をはじめ、様々な方法が考えられる。紹介し合い、感想のシェアを行う。

【グループ4】

居場所をめぐる体験型を提案。招いてブースをまわってもらう方法もあるが、センターから出て居場所をめぐるバスツアーまたはウォーキングツアーも実現できるのではないかと。参加・体験型もいい。まとめの場は、センターで行う。相談コーナーや、やりたい人をサポートするためのボランティアガイダンスを用意する。体験型は参加者に興味がある場所を回ってもらいたい。

■審議結果

当日欠席した運営委員にも情報を共有し、アイデアや意見を出してもらった上で、事務局で内容を整理することになった。

【その他】 20:55～21:00

6 今後の運営委員会スケジュール予定

資料4

次回運営委員会

令和4年6月17日（金）19時～ @市民活動支援センター「はばたき」